



●「春夏トレンドカラー解説」ご案内

パーソナルカラー研究会は、日本流行色協会(JAFCA)よりカラートレンド R&D カラープランナーの武田里美氏を迎え、ハイブリッドでの講演会を開催します。

◆日時：2023年9月23日(土祝)

13:00～15:00

現地受付開始(定員：40人) 12:30～
オンライン入室開始：12:45～

◆演題：JAFCA Trend Color 2024 年春夏
トレンドカラー解説

◆会場：千代田区九段南 3-9-1 九段サザンビル B1F 「みらいスペース市ヶ谷」

JR 中央線「市ヶ谷」駅より徒歩7分

◆申込先：以下のフォームよりお申込みください(アーカイブ配信あり)

<https://ws.formzu.net/dist/S366290368/>

◆申込締切：2023年9月19日(火)

◆ZOOM ID 等は9月21日(木)に連絡。

◆講演会参加費(資料代を含む)

日本色彩学会会員：2,000円

一般：3,500円

◆参加特典：会場で2024春夏シーズンの
情報誌「流行色」を50%引きの3,300円
で割引購入可能。(主査 宮崎純子)

(学会メールニュース No.432 から引用)

言葉凸凹 紫外線と赤外線

人が色として認識できる可視光線と呼ばれる放射領域の両外側に、紫外線と赤外線の放射領域がある。

可視光線より短波長の1～400nmの領域は紫外線、あるいは紫外放射と呼ばれる。

更にCIEでは315～400nmの範囲をUV-A、280～315nmをUV-B、100～280nmをUV-Cと呼んでいる。

UV-Aの領域は皮膚内にメラニン色素を生成して、沈着する性質から日焼けに通ずる。UV-B、Cは目や皮膚に障害を与えるので、安全基準が定められている。紫外線は、蛍光材の蛍光励起などの機能を持つために染色や蛍光塗料の分野で利用されている。

一方、可視光の長波長の端の780nmから数mmの波長範囲の電磁波は赤外線といい、温度をもつ全ての物体から放射される熱放射であるので、熱線とも呼ばれる。

可視光に近い波長の部分は、近赤外線、遠い部分は遠赤外線などとも言う。

白熱電球の黒体放射源、高圧水銀灯などの放電灯、赤外レーザーや発光ダイオードなどが、代表的な赤外放射源である。

紫外線の励起を利用した蛍光灯は、過去の光源になりつつある。(永田泰弘)

●大辞泉ひろいよみ 30一え

絵羽羽織：えばはおり。絵羽模様のついた、女性の訪問・外出用の羽織。絵羽織、えば。

絵半切り：淡彩の花鳥山水などの描かれている半切り紙。儀礼的な手紙などに用いた。

葡萄色：えびいろ。赤身を帯びた紫色。エビカズラの熟した実の色。また、イセエビの色とも。

葡萄染め：えびぞめ。染め色の名。薄い赤紫色。ブドウの実の色。織色の名。縦糸は蘇芳、横糸は紫。襲の色目の名。表は蘇芳、裏は縹。一説に表は紫、裏は赤。

葡萄茶・海老茶：えびちゃ。黒みを帯びた赤茶色。えび茶色。

葡萄茶式部：えび茶色の袴をよく着けたことから明治30年代の女学生のこと。えび茶袴。紫衛門。

絵筆：絵を描くのに使う筆。画笔。

絵奉書：淡彩で草花などを描いてある奉書紙。祝儀用。錦絵の色刷りなどに用いられる上質の奉書紙。

絵本：絵を主にした子供向きの本。江戸時代、絵を主にした通俗的な本。絵草紙。絵をかくための手本。絵手本。

絵馬：祈願や報謝のために、社寺に奉納する額。(永田泰弘)